

2014年から始まった活動「絵金のまち・赤岡町家再生活用プロジェクト」が、第62回建築士会全国大会北海道大会(主催/交益社団法人日本建築士会連合会)で全国一である最優秀賞を受賞。早速、発表者で高知高専の北山めぐみ先生にお話を伺いました。

息を吹き返しつつある赤れんが商家。 5年間の活動が日本一に!!

会場を沸かせたプレゼン作戦

「血が滴る。首が飛ぶ。高知の夏の風物詩 絵金の芝居絵屏風を皆さんご存知ですか? 時代劇「必殺シリーズ」のオープニング映像にもたびたび使用された事もあり、目にした人も多いと思います。」と始まり、血に染まった首がゴロンと転がってくるアニメーション。これで参加者の目は画面に釘付けに。
①祭りが消える ②町家が消える ③仲間を増やす(アート・建築を通じた町づくり) ④地域(文化継承の担い手発掘) ⑤未来に向けて(画期的な町家保全) という5つの構成で発表され、見事日本一に輝きました。

町の大切な宝物消失の危機

赤れんが商家は明治初期 初代赤岡村長によって建てられた邸宅で、150年以上の間、町の人々の暮らし、営みを見守り続けてきました。
『どうしても残したい建物がある。』町の方からの連絡をいただきました。2013年12月、商家を解体しようとする2日前に町の人が所有者にお願い入

れ、何とか残されたんです。でも、蟻害や台風などで建物の傷みは激しく、再生への糸口が見つかずじまいでした。」と北山先生は振り返ります。

「この商家再生のプロセスから地域に愛着を持つ若者の育成、高知の伝統工法の次世代継承、地域コミュニティの維持を実践しよう」と、高知高専生とそれに賛同した若手建築家、大工職人、地域住民がタッグを組み、2014年11月に『絵金のまち・赤岡町家再生活用プロジェクト』はスタートしました(資料より引用)

お掃除ワークショップ

この時は私(筆者)も参加しました。商家の象徴でもある赤れんがは外壁だけでなく、土間の床にもびっしりと敷き詰められています。土に覆われていてその姿は隠されていました。参加者たちは、水で流しながら床をたわしでゴシゴシ。すごい! きれいな赤れんがが出てきた! 次々に歓声が沸き起こりました。黒ずんでいた土佐漆喰

の壁も磨かれ、何年もの間眠っていた空間が目覚めた瞬間に立ち会えたことは、感動でした。

「機会があつて赤岡中学校で出前授業をさせていただいて以来、現在では赤岡中学校の生徒たちもこの活動に加わり、町のお掃除隊として地域の町家や街並みをきれいにしてくれています」と北山先生は話します。この活動は、赤岡の皆さんに大変喜ばれています。

活動の記録、あかおかわらばん

ワークショップで決まった活動チームの名前「すてきなまち・赤岡プロジェクト」では、お掃除、建物の修理等のワークショップ、イベントの開催、定期的なカフェなどが行われています。その記録をまとめた月一回発行の「あかおかわらばん」は、今月で48号目の発行となります。

昔と今をつなぎ再生へ

高知高専の北山めぐみ先生は、昨年住居を赤岡町に移し、香南市民として、赤れんが商家再生に向けてさらに熱心に取り組んでいます。

「活動を通して昔の暮らしの発見し、先人の知恵や建築技術を知ることができました。古くからこの地域で絵金を礎として重ねてきた赤岡町独自の文化とその痕跡を古民家がつないでくれています。老朽化だからと壊すことは簡単です。でもその前に、壊してしまえば、残すべき記憶すべてが失われてしまうということを少し考えてみませんか? チームは、今後さらに5年間を目標に赤れんが商家の事業化を目指します。

また赤岡町全体の古民家を調査、残す活動を広げていきます。赤岡だけにとどまらず、残すべき文化や技術は香南市にまだまだたくさんあります。市民の皆さんも、チームの一員としてこのプロジェクトに参加してみませんか? と話す北山先生の大きな瞳の先に見えるものは、息を吹き返した赤れんが商家が持つ、新しい町の姿、交流する人たちの笑顔なのかもしれません。

みんなの宝物だから
使いながら守る。



もと誂え靴屋の木製足型



パンケーキcafe



和裁教室



うきよばなれ珈琲



高知工業高等専門学校
ソーシャルデザイン工学科
助教教授の北山めぐみ先生

◆赤れんが商家では活動に賛同し、支援して下さる方を募集しています。ご協力いただいた寄付金は、建物の修復やトイレ設置などの費用に充てられます。また、建物を残すために買い取って下さる方も募集中です。



あかおかわらばん
れんがを積み重ねるように
ひとつずつ重ねてきた再生への記録。
すてきなまち・赤岡プロジェクトの
サイトで全号ご覧になれます。



◆すてきなまち・赤岡プロジェクト(代表理事: 浜田義隆)
事務局: 南国市物部乙200-1高知高専内 北山研究室
Tel/Fax: 088-864-5583
Mail: akaokaakarenga@gmail.com
https://www.akaokaakarenga.org/

